



文化審議会国語分科会日本語教育小委員会 における審議内容について

平成26年度日本語教育研究協議会
北海道・東北ブロック

平成26年9月20日(土)
福島県

報告者

伊東 祐郎

(文化審議会国語分科会日本語教育小委員会主査)

○平成19年7月

- ・定住外国人の増加を受け，文化審議会国語分科会に日本語教育小委員会を設置。

○平成20年1月

【報告書】「今後検討すべき日本語教育の課題」

⇒地域社会の一員として外国人が社会参加するのに必要な日本語学習の支援で，以下の3点について早急に検討が必要

- ① 内容の改善
- ② 体制の整備
- ③ 連携協力の推進

○平成21年1月

【報告書】

「日本語教育の充実に向けた体制整備と「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容等の検討」

⇒以下の4点についてまとめ

- ① 体制整備⇒国・都道府県・市町村の役割分担
- ② 各機関の連携協力の在り方
- ③ コーディネート機関・人材の必要性
- ④ 日本語教育の内容の大枠



①体制整備 ⇒ 国・都道府県・市町村の役割分担

主体	役割分担の内容
国	日本語教育の目標及び標準的な内容・方法，体制整備の在り方，評価の方法等についての指針…
都道府県	域内の実情に応じた日本語教育の体制整備，内容等の検討・調整…
市町村	日本語教育の内容等の具体化，地域における指導者の養成…



②各機関の連携協力の在り方

…連携による機能・体制強化

③コーディネート機関・人材の必要性

…都道府県及び市町村においては、地域の特性に応じた日本語教育の企画・運営を行うため、大学や研究機関の研究者、日本語教師、企業関係者、国際交流協会関係者、NPO関係者、ボランティア、在住外国人等の協力を得て、地域の実情に応じた日本語教育を実践する必要がある。

…都道府県及び市町村においては、日本語教育のコーディネート機能を自治体等の本来業務として位置付け、それを担う人材をできる限り常勤職員として配置することが重要。

④日本語教育の内容の大枠



○生活者としての外国人に対する日本語教育の目的

言語・文化の相互尊重を前提としながら、
「生活者としての外国人」が日本語で
意思疎通を図り生活できるようになること



○生活者としての外国人に対する日本語教育の目標

日本語を使って…

- ①健康かつ安全に生活を送ることができる
- ②自立した生活を送ることができる
- ③相互理解を図り、社会の一員として生活を送ることができる
- ④文化的な生活を送ることができる

ようにすること



日本語教育の内容・方法の改善における成果物

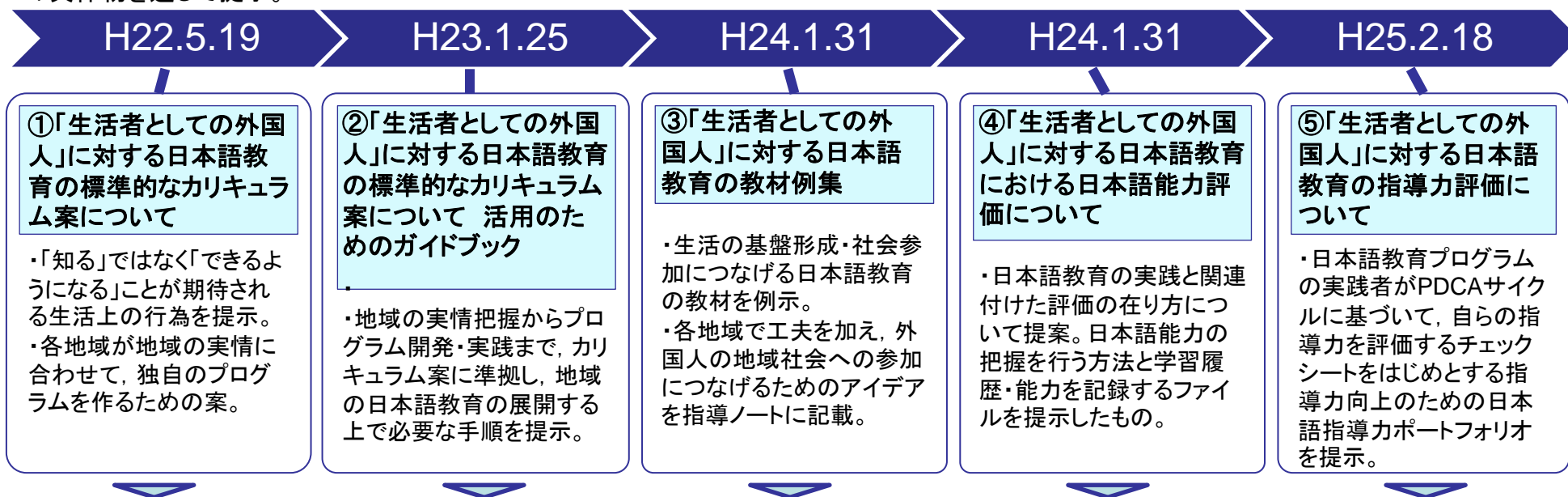
平成19年7月 定住外国人の増加を受け、文化審議会国語分科会に日本語教育小委員会を設置。

平成21年1月【報告書】「日本語教育の充実に向けた体制整備と「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容等の検討」

①体制整備⇒国・都道府県・市町村の役割分担, ②各機関の連携協力の在り方, ③コーディネート機関・人材の必要性, ④日本語教育の内容の大枠の提示 ※④に基づき、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的な内容・方法について検討。

【検討1】「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的な内容・方法の検討

・「外国人が地域で生活できるようになり、社会参加できる」ようになるために必要な日本語教育の考え方、各地での工夫・応用の仕方を以下の具体物を通して提示。



各地域において、上記成果物を活用して各地域の実情に応じた日本語教育を展開し、日本語教育を通じて、外国人が地域社会とつながり、外国人の社会参加(エンパワメント)・多文化共生社会につながることを期待。

【検討2】日本語教育に関する課題の検討

・日本語教育小委員会に「課題整理に関するワーキンググループ」を設置し、日本語教育に関する課題の洗い出し、整理を実施。

平成25年2月18日に「日本語教育の推進に向けた基本的な考え方と論点の整理について(報告)」を取りまとめ。

1 カリキュラム案で扱う生活上の行為

- **健康・安全に暮らす** (7単位)
 - ・ 健康を保つ
 - ・ 安全を守る
- **住居を確保・維持する** (2単位)
 - ・ 住居を確保する
 - ・ 住環境を整える
- **消費活動を行う** (4.5単位)
 - ・ 物品購入・サービスを利用する
 - ・ お金を管理する
- **目的地に移動する** (3.5単位)
 - ・ 公共交通機関を利用する
 - ・ 自力で移動する
- **人とかかわる** (2.5単位)
 - ・ 他者との関係を円滑にする
- **社会の一員となる** (4.5単位)
 - ・ 地域・社会のルール・マナーを守る
 - ・ 地域社会に参加する
- **自身を豊かにする** (2単位)
 - ・ 余暇を楽しむ
- **情報を収集・発信する** (4単位)
 - ・ 通信する
 - ・ マスメディアを利用する

それぞれの生活上の行為について、より具体的にイメージしやすいように

- ① 具体的な達成目標である「能力記述」
- ② 生活上の行為を行う「場面」
- ③ 日本語での「やり取りの例」

さらに「やり取りの例」に含まれる

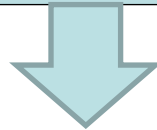
- ④ 発話の「機能」
- ⑤ 「文法」
- ⑥ 「語彙」
- ⑦ 「4技能」

を記述。



2 カリキュラム案の活用及び指導方法のポイント

- ① 地域・学習者に応じた教育内容の選択と工夫
- ② 行動・体験中心の活動
- ③ 専門家・地域住民との協働
- ④ 対話による相互理解の促進



獲得された意思疎通の手段により、人とつながること、言葉の壁によって発揮できていなかった自分らしさや力を取り戻したり、発揮できたりするようになること、そして社会の一員として自立し、社会生活のあらゆる領域に参画すること＝「エンパワーメント」を実現することが重要。



【日本語教育プログラム作成手順】

1. 域内の外国人の
状況・ニーズ，地域
のリソース等の把握

- (1) 対象とする学習者の属性や数の把握
- (2) 生活課題の把握
- (3) 地域のリソースの把握

2. 日本語教室
の目的や設置場
所等についての
検討

- (1) 日本語教室の目的を設定
- (2) 学習者のニーズ，地域のリソースに基づいた教室の設置
 - ① 地域課題，域内の外国人の状況に対応した日本語教室の設置
 - ② 行政・関係機関との連絡調整

プログラムの
見直し

相互作用

3. 具体的な日
本語教育プログ
ラムの作成

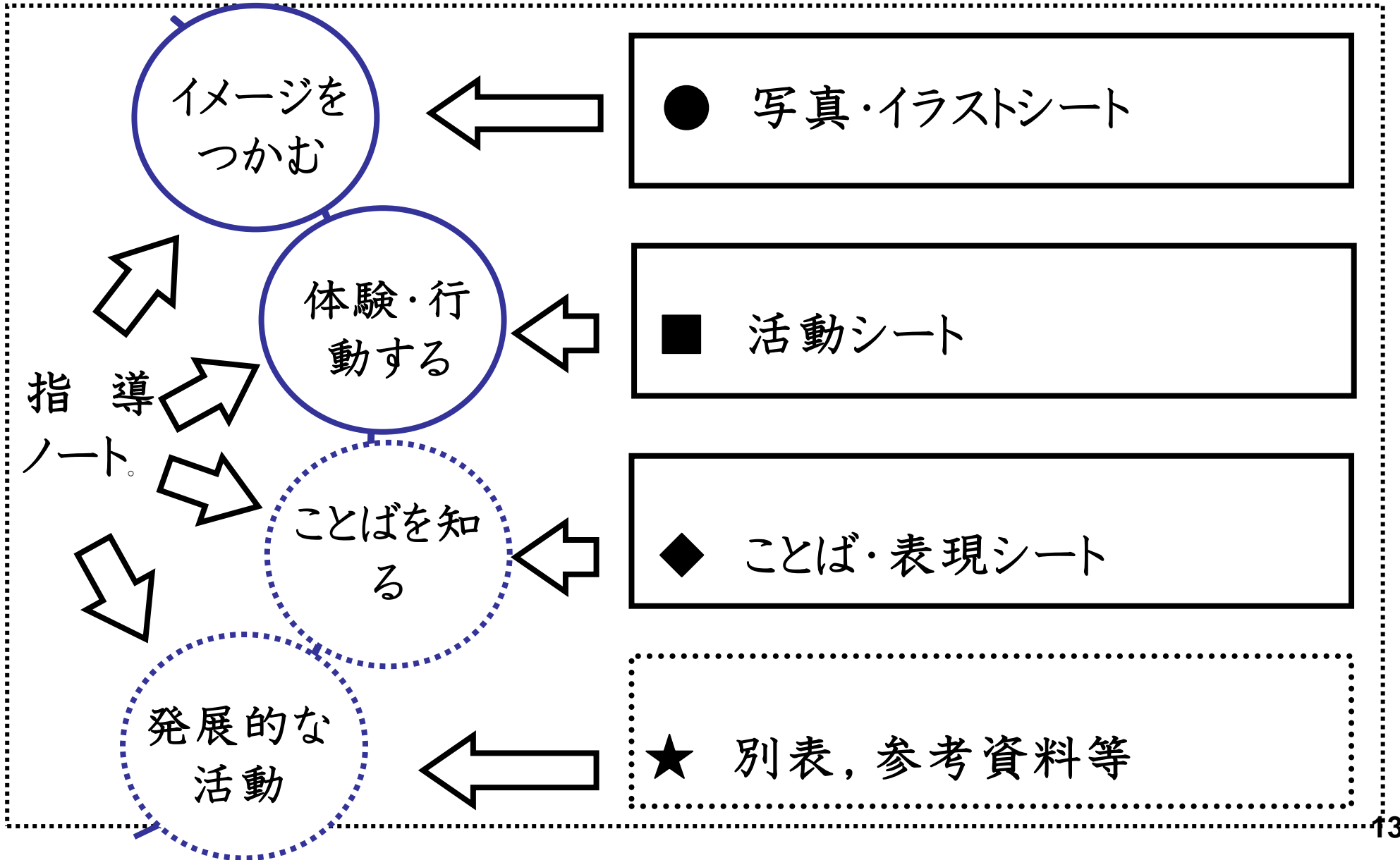
- (1) 学習内容について検討
- (2) 学習順序について検討
- (3) 学習時間について検討
- (4) 指導者・協力者について検討
- (5) 教室活動について検討
 - ① 行動・体験中心の活動について検討
 - ② 教材について検討
 - ③ 評価について検討

各地域の実情に
応じた日本語教
育の実施

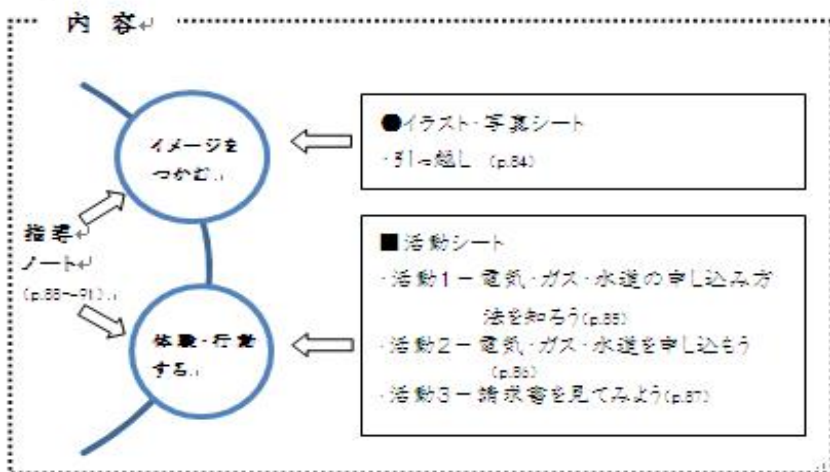


教材例集とは...

- 日本語を用いて生活上の行為を行えるようになるための、行動・体験中心の教室活動で用いる教材の例示。
- カリキュラム案から分野が偏らないように生活上の行為を選択し、教材を例示。



【07】住居を管理する



取り上げる生活上の行為の事例

- (0701010)「電気・水道・ガス等の開始手続きについて理解する。」
- (0701040)「電気・水道・ガス等の使用開始について、地域の公的機関で発行している生活情報パンフレット等で確認し理解する。」
- (0701090)「電気・水道・ガス等の申し込みをする。」
- (0702030)「電気・水道・ガスの請求書を理解する。」

教室活動の目標

- ・電気・水道・ガスの開始手続きについて理解する。
- ・電気・水道・ガスの申し込みができる。
- ・電気・水道・ガスの請求書を理解する。

教室活動のねらい

- ・電気・水道・ガス等の使用開始について、地域の公的機関で発行している生活情報パンフレット等で確認し理解する。
- ・電話で開始に必要な事項を確認して、申し込みをすることができる。
- ・請求書兼領収書の見方を理解する。

イメージのイメージをつかむ

(07)住居を管理する

引っ越し



※パソコン大好きママの手育て愛読書 <http://t.yakipk.seesaa.net/article/114035447.html>

体験(たいけん)-行動(こうどう)する

(07) 電話を管理する。

活動1 - 電気・ガス・水道の申し込み方法を 知ろう。

(1) 下のものを 見たことが ありますか。 下の 写真と 関係する ことを 選びましょう。



体験(たいけん)-行動(こうどう)する

(07) 電話を管理する。

活動2 - 電気・ガス・水道を 申し込もう。

新しい 家の ガスの 申し込みを しましょう。

(※Aさん-学生者 Bさん-ガス会社の人)⇨
 Aさん: 引っ越しを するんですが、 ガスの 申し込みを お願いします。⇨
 Bさん: 分かりました。 お名前、 ご住所を お願いします。⇨

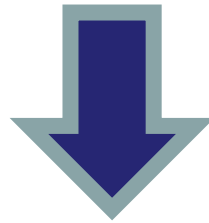
文化庁ホームページからダウンロード（ワードで掲載）。
 学習者の状況や地域の実情に合わせて、適宜、工夫や加工を行った上で利用可能。

電気	いつ	
	電話番号	
ガス	いつ	
	電話番号	
水道	いつ	
	電話番号	

Aさん: 午前、 お願いします。⇨



学習者の学習動機の維持・継続的な学習支援を一義的な目標に、さらに指導者が学習者の日本語学習をより適切に支援するために、「日本語学習ポートフォリオ」を開発

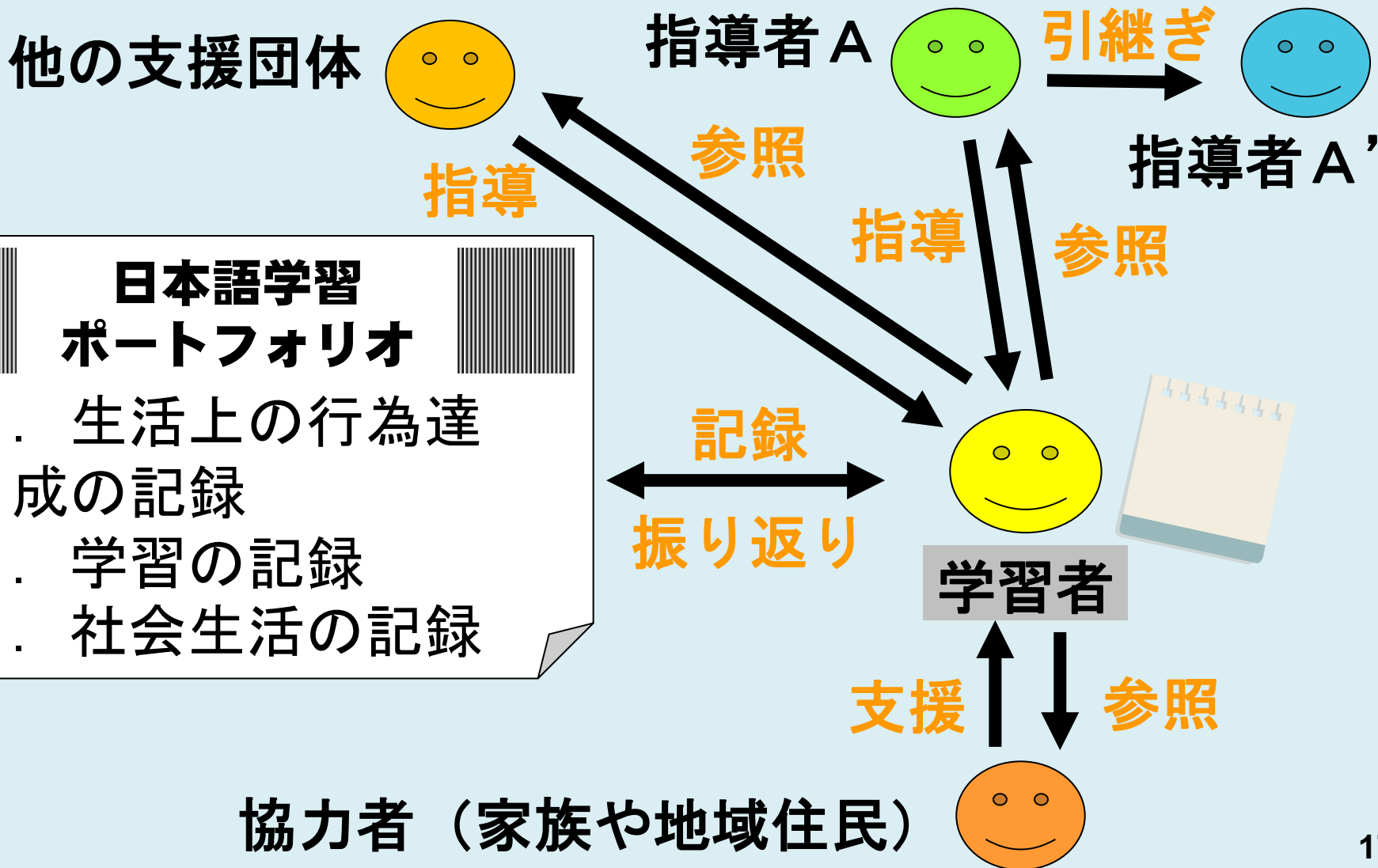


「日本語学習ポートフォリオ」とは...

日本語学習者の履歴・能力の把握と継続的な支援及び日本語教育プログラムの改善に資するために学習成果を蓄積するファイル



日本語学習ポートフォリオと学習者・周囲の関係



**日本語学習
ポートフォリオ**

1. 生活上の行為達成の記録
2. 学習の記録
3. 社会生活の記録



<能力評価のポイント>

① 学習者にとって

- ・できるようになったことを確認する
- ・これからの日本語学習の目標や計画を立てる

② 指導者にとって

- ・学習者と一緒に日本語学習の目標や計画を立てる
- ・できることを確認し、教室活動を考える際の参考とする

③ 協力者(家族や地域住民にとって)

- ・学習者が日本語でできることを確認するだけでなく、必要な支援を知る



能力評価について

大分類		
中分類		
小分類		
事例 1 (上位項目)		
事例 2 (下位項目)		能力記述
I 健康・安全に暮らす		
O 1 健康を保つ		
(O 1) ● 医療機関で治療を受ける		
0101	適切な医療機関の選択をする	
	0101060 ★ 隣人に容態を伝えて助言を 求める	<ul style="list-style-type: none"> ・体の名称が分かる ・症状の名称が分かる ・隣人に症状を伝えることができる ・内科，歯科など診療科の名称が分かる ・隣人に適切な診療科，医療機関の助言を求めることができる ・隣人に適切な医療機関の所在を聞くことができる
0102	問診票に記入する	
	0102010 ★ 初診受付で手続をする	<ul style="list-style-type: none"> ・初診であることを伝えることができる ・自身の保険証の内容が理解できる ・保険証についての質問が理解できる ・問診票の記載事項が理解できる ・問診票などに住所，氏名，症状などを記入することができる ・「受付→待合室→診察室→待合室→会計」といった受診の行動の流れが理解できる
0103	医者の説明・指示を理解し，応答する	
	0103010 ★ 医者の診察を受ける	<ul style="list-style-type: none"> ・症状を伝えることができる ・症状が始まった時期を伝えることができる ・症状の程度を伝えることができる

<目的>

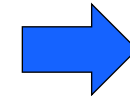
「生活者としての外国人」に対する日本語教育をカリキュラム案等を活用して行う上で必要な能力について評価することにより、その向上を図り、「生活者としての外国人」のニーズにより一層応えうる日本語教育の実現につなげる。

<評価の対象>

カリキュラム案等を活用して、日本語教育プログラムの作成、実施、点検、改善をPDCAサイクルに基づいて行う能力。

<評価対象者>

- ・ 地域日本語教育指導者
- ・ 地域日本語教育コーディネーター



実践者

<評価者>

- ・ 自己評価が基本

<評価の方法>

- ・ 指導力評価に必要な項目の一覧から自らの役割として必要な項目を選択して作成するチェックシートを用いて評価。

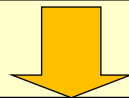


【参考】

指導力評価における日本語教育プログラムのPDCAサイクル

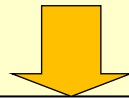
Plan (企画)

- I 地域の状況の把握
- II 日本語教室の目的の設定・日本語教室の設置
- III 具体的な日本語教育プログラムの作成



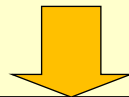
Do (実施)

- IV 各地域の実情に応じた日本語教育の実施



Check (点検)

- V 日本語教育プログラムの点検



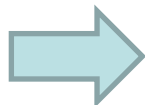
Action (改善)

- VI 日本語教育プログラムの改善

※PDCAサイクルに基づき、指導力の向上や日本語教育プログラムの改善を行い、「生活者としての外国人」のニーズにより一層応えうる日本語教育の実現へ

Plan-Do- Check-Actionの別		対象例		評価の記録		
指導力評価項目		指導者	コーディネーター	① 月 日	② 月 日	③ 月 日
Plan(企画)						
I 地域や外国人の状況の把握						
1. 地域の外国人の状況の把握						
(1) 地域の外国人の状況や学習者の状況を把握している						
1)	地域の外国人の増減とその理由を把握している		○			
2)	学習者がこれまでに日本語学習をどの程度行っているか把握している	○	○			
3)	学習者がこれまでに言語学習をどの程度行っているか把握している	○	○			
4)	学習者の年齢、職業、家族形態などを把握している	○	○			
5)	学習者の学習環境(辞書やオーディオ機器・PCなどを所有しているか、日本語学習に協力してくれる人はいるか、どの程度日本語学習に時間を割けるかなど)を把握している	○	○			
6)	学習者の使用言語とその使用場面、日本語でのやり取りが求められる場面を把握している	○	○			
(2) 学習者のニーズを把握している						
7)	学習者が生活面で課題として抱えていることを「今できないと困ること」「今できるようになりたいこと」「今後できるようになりたいこと」「いつかできるようになりたいこと」に分類するなどし把握している	○	○			
8)	学習者が求める教室活動の方法や教材などを適切な方法で把握している	○	○			
2. 地域のリソース等の把握						

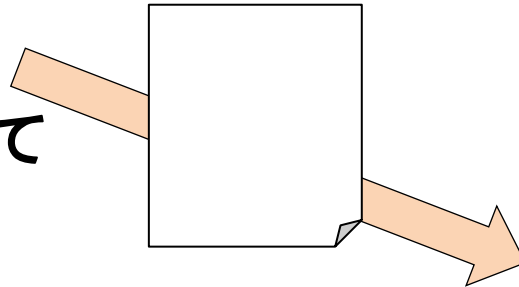
指導力評価項目一覧



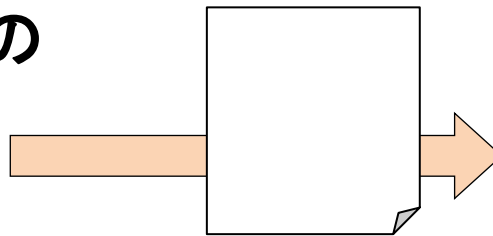
役割として必要な項目を選択して、
チェックシートを作成する。

＜日本語指導力ポートフォリオ＞

○指導力評価に関する
チェックシートについて

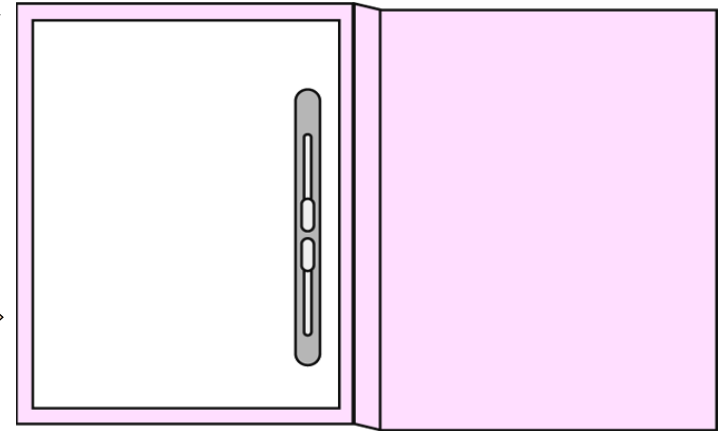
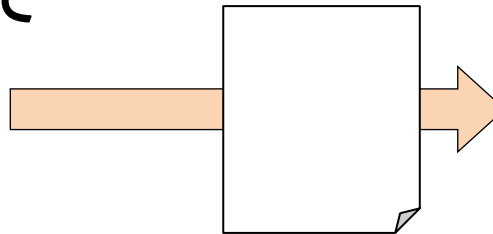


○日本語教育プログラムの
実践の記録について



日本語指導力
ポートフォリオ

○研修受講の記録について





「生活者としての外国人」に対する日本語教育プログラムの実践のための5点セット

指導者について

教室活動の内容について

学習者について



教室活動のデザインと参加

行動・体験中心の教室活動への参加による
日本語学習，相互理解

参加



指導力評価

◎実践の振り返り・点検・改善から、実践者のコミュニティの形成

【内容】
日本語教育プログラムの実践をPDCAサイクルの観点から振り返るためのもの。

※正式名称
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における指導力評価について

作成：平成25年2月18日

カリキュラム案

◎教室活動で取り上げる内容を考える材料の提示

【内容】
「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容を示したもの。

※正式名称
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における標準的なカリキュラム案について

作成：平成22年5月19日

ガイドブック

◎カリキュラム案の内容を地域や外国人の状況に合わせてときのポイントの解説

【内容】
カリキュラム案の内容を地域や外国人の状況に合わせて実施するときのポイントを示したもの。

※正式名称
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における標準的なカリキュラム案活用のためのガイドブック

作成：平成23年1月25日

教材例集

◎行動・体験中心の教材の例示

【内容】
カリキュラム案で取り上げている生活上の行為を取り上げ、行動・体験中心の教室活動で用いる教材を例示したもの（教室活動の展開や工夫の仕方を説明した指導ノート付き）。

※正式名称
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における標準的なカリキュラム案 教材例集

作成：平成24年1月31日

能力評価

◎振り返りの方法とポートフォリオの提示～やったことを確認して記録

【内容】
学習者の自己評価に加えて、日本語能力を把握する方法と、学習成果を記録し蓄積するファイルである日本語学習ポートフォリオを提示したもの。

※正式名称
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における日本語能力評価について

作成：平成24年1月31日

ハンドブック（全体を説明）

※正式名称 「生活者としての外国人」のための日本語教育 ハンドブック

文化審議会国語分科会日本語教育小委員会 ～今期の検討内容～

○平成24年5月28日に日本語教育小委員会に「課題整理に関するワーキンググループ」を設置。
日本語教育を推進する意義等について再確認するための検討を行い、改めて「基本的な考え方」を整理。
その上で、今後、具体的な施策の方向性や日本語教育の推進方策を議論していく際の「検討材料」として「11の論点」を整理。

報告書の構成



現在の検討状況

○日本語教育小委員会において、論点を「検討材料」として調査、ヒアリング等を実施

○日本語教育小委員会以外にも、様々な機会を生かして、関係機関・団体、都道府県・市区町村等から11の論点に関してデータ、意見を収集し、整理。

○平成26年1月31日に「日本語教育の推進に当たっての主な論点に関する意見の整理について（報告）」を取りまとめ。

今期の検討

○まず、論点7「日本語教育のボランティアについて」、論点8「日本語教育に関する調査研究の実施体制について」検討を開始。